

『体育祭』



◀人気のプログラム『クラブ行進・クラブ対抗リレー』。吹奏楽部とジャズバンド部による勇壮な生演奏とクラブ紹介のアナウンスにのせて堂々と歩を進め、全クラブが整列。クラブ加入率の高さをあらためて実感する光景となった。リレーでは、クラブ活動を通して築いたチームワークが全開! バasketボール部はドリブルをしながら、水泳部は泳ぐジェスチャーをしながら走るなどのパフォーマンスもあり大いに盛り上がった。



『何ごとにもベストを尽くす』
受け継がれるスピリッツを実践!

左)『一瞬入魂～負けて泣くなら勝って泣け』をスローガンに掲げた赤団。BGMにオリジナルの替え歌を取り入れたり、軽快なダンスや多くの隊形変化を盛り込んだりと、ていねいに作り上げた構成が光った。

右)『大和にまします神々よ、黄団を優勝に導きたまえ!』と、天を仰ぐ団長の力強い祈りからスタートした黄団の演技。神事を彷彿させる小道具を取り入れた独特の世界観をもって、スローガン『令和元年狂喜走舞 黄団優勝』に込めた思いを表現。



学校動画を公式HP [shigaku.net]で公開中!



▶これまで培ってきた団結力が試される、3年生の『集団行動』。番番は午後ながら、午前中から、号令をかける生徒が教員に「立ち位置のことなんですが…」と最終確認をしていたり、「ここで間違わないようにしなきゃ!」と動きをチェックし合うグループがいたり、並々ならぬ意気込みだ。3クラス合同の練習が数えるほどしかなかったとは思えない、礼の角度、移動時の歩幅、掛け声の調子もそろった秩序の美しさを、人工芝グラウンドのグリーンが引き立てる。

▲三つの団の力が均衡していたこともあり、一つひとつのレースで「頑張れー!」「ヤッター!」と声援を送り、結果に一喜一憂していた生徒たち。1年生の『台風目』では、走者がチームの列の足元に棒を通す際、息の合ったジャンプを見せていた青団が勝利! 応援席から歓声が湧き上がった。

▼1年生の学年競技は、男女混合の『台風目』を含めて三つ。男子による『棒引き』、女子による『2人3脚リレー』も行われた。入学して2カ月しか経っていない1年生たちの奮闘を、上級生の温かな声援が支える。



▼体育祭で実施された6種のリレーの中でもユニークな2年生の『鳥渡りリレー』。背中の上を伝う生徒、ゴールに向かってどんどん道を延ばしていく生徒の流れるような動きに釘づけに。



▲男女とも白熱した戦いを繰り広げた、2年生の『騎馬戦』。不意な結果に悔し涙を流す生徒が出るほどの真剣勝負で、応援のボルテージも急上昇!

象的でした。進行するにつれて徐々にヒートアップしていきますが、その過程は、個々の表情・応援はもちろん、生徒によるアナウンスにも表れます。熱気が最高潮を迎える最後の競技『団対抗リレー』では身を乗り出さんばかりにして、「すごいです! 速いです!」と熱い実況を響き渡らせていました。

結果発表直前、グラウンドを包み込んだ静寂。その後の喜び合い、ねぎらい合う姿。閉会式での一つひとつの場面からも、生徒たちの「本気」がうかがえました。全力を尽くしたからこそ得られる達成感を仲間と共有することで、たくましさ、やさしさをはじめとする「人生に活きる素養」が着実に育まれているのです。

2 019年6月8日、中学校の体育祭が開催されました。3学年縦割りで編成された三つの団が競い合う体育祭は、「心一つにして頑張ることの大切さ」「目標達成に向けて準備することの重要性」「結果を出すためのようなプロセスを踏めばいいのかという、頑張り方を体験的に学ぶ行事の一つ。同校に息づく、何ごとにもベストを尽くす精神」が色濃く表れる場でもあります。その中で自然と育まれる、結果にこだわり試行錯誤を重ねる姿勢や、情熱と冷静さを併せ持ち、ものごと臨む力が、受験勉強や将来に生きるという声も多数。まさに、生きるうえで基盤を築く機会となつていくのです。

そんな同校らしさが最も際立つのが『応援合戦』。応援団のメンバーは約1カ月間、演技の構成を練り、曲を選定し、振り付けやセリフなどを考えて練習を重ねます。エンターテインメント性も備えた個性あふれる演技からは、3年生のリーダーシップのもとで生まれた強い絆が手に取るように伝わってきました。

中学校単独で行われる体育祭のため、一人ひとりの出番が多いことも大きな特徴です。生徒会や体育委員を中心にキビキビと動き、競技と応援のメリハリをつけながら、全員が各プログラムに集中している姿が印